Chuo University

輝け！伝統の赤い襷

箱根駅伝を強くする会ニュース　2016年　12月号

平成29年度 通常総会

鈴木修氏が会長退任 新会長に（前幹事長）中村重郎氏

中村新会長

監督、選手、大学、学員会、陸上競技部OB会、強くする会「関係者全員が仲良く力を合わせよう」

平成29年度通常総会が11月11日（金）、中央大学駿河台記念館で開かれ、役員改選で鈴木修氏が会長を退任し、新会長に前幹事長の中村重郎氏（昭和34年経済学部卒、株式会社サンウエー代表取締役）の就任が承認されました。

中村新会長は挨拶で、鈴木前会長に謝辞を述べたあと、箱根駅伝で優勝するには「監督、選手の努力は5、6割で大学（法人と教学）の役割が3割、それに学員会、OB会、強くする会の協力度が2、3割と考えています」と強調。そのうえで、いまや箱根駅伝は大学の経営戦略のひとつになっていることを指摘。「やっとそれに気がついた」中央大学がスポーツ振興・強化推進室を立ち上げ、5年以内に5位以内、10年以内に総合優勝を目指していることについて、「（関係者）全部が力を合わせて仲良くやらないと絶対に優勝はできない」と述べ、関係者が結束する必要性を強調しました。

「中大魂で、一致団結」を 鈴木修氏が会長退任挨拶で強調

鈴木修・前会長は、総会に先立つ役員会で会長退任の挨拶をされ、次のように述べられました。（要旨）

藤原正和監督は過去を断ち切ることにしたんじゃないでしょうか。一年生をキャプテンにし、自分も監督一年生で、自分が育てた選手が4年生になった時に優勝を狙うという深慮遠望です。昔のことを考えていたらいけない。それを藤原監督、野村修也部長が悟られた。みなさん、一致団結し、中大魂と不屈の精神で藤原監督をバックアップしてください。4年のうちに優勝は間違いないと、いま私はすっきりした気持でいます。これからは浜松で応援し、後方支援をさせていただきます。みなさん、4年待ちましょう！

藤原正和・駅伝監督にインタビュー

―― 来年の箱根駅伝予選会に向けての意気込みを聞かせてください。

来年ダメなら中大終わる

藤原　来年の予選会を通って、本選でシード権にからんでいかないと中大の未来はないと思っています。来年10月まで全身全霊をかけて強化していくとの思いで、取り組んでいます。

―― 来年予選会を通らないと中大は終わる？

藤原　伝統校で古豪と言われている大学が、2年連続で予選会を落とすと、這いあがれないという気持ちです。この1年で立て直していかないと、スカウトにも響いてきます。

冬のスピード強化が勝負

―― 現有選手のレベルアップですね。

藤原　完全なレベルアップをしないと到底、予選会は通りません。（監督に就任して）この半年間で種を撒いてきて、記録会である程度は芽が出始めています。それをこの冬の間にどれくらい伸ばして、来年の夏の間につぼみにさせて、秋に花を咲かせるか。とにかくこの冬が勝負です。

12月はトラックで5千㍍、1万㍍のスピード強化を図ることに徹しています。そこで記録を出して自信を掴んで、来年3月5日の立川ハーフマラソンに挑む。立川ハーフでは、欲をいえば10名が1時間3、4分でしっかり走る。それが出来ることで予選会への自信にもつながると思っています。

練習の質・量の増強と人間力育成でレベルアップ

―― この半年間で撒いてきた種とは？

藤原　早いスピードのインターバル練習を増やしたのと、全部の練習の質をあげています。

私が初めて選手の練習をみたとき、選手に箱根を走るという覚悟がまったくみられませんでした。駅伝は毎日やってきたことの結果がでる競技です。レースの最後は誰だってきつい。そこでの勝負は本当に勝ちたいという強い意志をもっているかどうかです。選手には、そうした人間教育ができていなかった私は思いました。

昔と違って、いまは「辞めろ」と言うと本当に辞めてしまう。それでは社会に出てからは役に立たないので、人間としてのあり方をしっかり教えてやらないといけない。嫌われてもいいから選手にはきついことは言うし、直さないといけないことは真剣に言います。

―― 短期的な選手強化は練習の質と量のアップ、そして人間力、精神的な面でのレベルアップということですね。

藤原　そのふたつをやっていけば、絶対にタイムが出ますから。そこにフォーカスしてやっています。

期待できる新入生選手

―― 新1年生は戦力に？

藤原　スポーツ推薦で10名入ってきます。いま時点の記録でいくと、（5千㍍）14分10秒台が2名、20秒台が3名いて、インターハイ出場者が6名で、決勝にいって入賞したのが3名いますので、いい選手が入ってくるなという印象です。

そのうちの1名は夏の中

大合宿にも参加して、しっかり練習ができていたので、間違いなく来年の予選会は使えると思っています。新入生選手のなかで、いまの1年生みたいに2、3人が使えるようになってくれれば、いまの1、2、3年生のあと半年間での伸びを考え合わせれば、予選会は通れる確率は高いんじゃないかなと、今のところは感じています。

アメリカに選手を派遣

―― 大学では5年以内の5位以内、10年以内の総合優勝を目標に掲げています。長期的な対策は？

藤原　ひとつは、海外に出て、現地の生活をして何かを学んで帰ってくる。今年の夏は3名の選手をアメリカの高地合宿に2週間行かせました。日本の恵まれた環境が当たりまえではないことを体験してもらいました。この冬には、アメリカの大学に1、2名の選手を

制度改善を要望、大学は強化費など本腰で支援確約

を行かし、アメリカの選手と1カ月練習することで、何かを学んで帰ってきてほしい、と思っています。

いずれは五輪選手輩出も

―― それを活かす。

藤原　私自身は、長距離で活躍するアメリカで学んで帰ってきた選手から情報をもらって、それを指導につなげたい。そして中大で4年間過ごした選手が世界選手権なりオリンピックに出るというサイクルをつくっていきたい。日本の陸上界にも還元したいし、中大のブランド価値にもつながるので、そうしたことを長期的にはやっていきたいと思っています。

―― スカウトはじめ大学の支援体制はどうですか？

藤原　10月下旬に理事長、総長・学長らにお目にかかり、いろいろな要望をお伝えしました。他大とうちではこれだけ（制度が）違います。スカウトではこれだけ不利な状況にあります、などと申し上げました。「人もいない、金もないで勝てと言われても無理なものは無理です」と言わせていただきました。

それで「わかった。大学も本腰を入れてやる」と言ってくださり、強化費、それにスカウトの条件面でもいままでに比べ、ずっといい内容にしていただけることになりました。

スポーツ推薦10名で固定

―― スポーツ推薦枠は？

藤原　これまでは短距離と長距離と合わせて15名の枠でやってきました。15名の枠内で、分け合っていたのですが、来年からは長距離ブロックの枠を10名に固定しましょう、ということになり、長距離で10名を毎年とれる制度をつくっていただきました。

それに加えて特別待遇の選手について、いままで以上に配慮していただくことになりました。

物心両面の支援体制整う

―― 要望は通った？

藤原　ほぼ満額の回答をいただいていますので、大学もようやく本気になってくれたなと思っています。現状をわかってもらい、物心両面で支えてもらう体制ができましたので、いい方向にはいっています。

―― それはなによりです。強くする会も支援しますので、ぜひ頑張ってください。本日はありがとうございました。

（インタビューは広報委員長の伊藤博が12月2日に行いました）

平成29年度　通常総会開く
新年度事業計画、役員改選など承認

平成29年度通常総会・会員懇親会が11月11日（金）、中央大学駿河台記念館で開かれました。

箱根駅伝本戦の出場を逃し、連続出場が87回で途切れてしまいましたが、この日は中大の再起を心から願う熱心な会員80人が出席しました。

総会では、平成28年度の事業報告と収支報告、監査報告、平成29年度の事業計画（案）と収支予算（案）、そして鈴木修氏の会長退任に伴う役員改選が提案され、すべて提案通り承認されました。

新会長に就任した中村重郎・前幹事長の後任の幹事長には、前島一夫・前副幹事長（昭和35年卒）＝写真左＝が就任しました。

このあと懇親会に移り、会員は寂しい正月を迎えることになったことを悔みつつも、新年は必ず予選会を突破することを互いに確信しあっていました。

新規会員を募集しています

「中央大学箱根駅伝を強くする会」では、新規会員を募集しています。

当会は4月に新入生選手激励会・懇親会、そして11月に通常総会・選手激励会を開催。また箱根駅伝応援バスツアー（1月）、千葉合宿（3月）、全日本大学駅伝予選会（6月）、妙高・菅平高原合宿（8月）、箱根駅伝予選会（10月）などの見学・応援会を行っており、物心両面で中央大学陸上競技部長距離ブロック（駅伝）を応援しています。

年会費は5000円。会員の皆様には「箱根駅伝を強くする会ニュース」（年4回発行）のほか随時、駅伝監督、選手らの情報をお届けします。

箱根駅伝を強くする会ニュース　2016年12月号

編集・発行：　中央大学箱根駅伝を強くする会広報委員会

事務局：　〒101-8324
東京都千代田区神田駿河台3－11－5

中央大学駿河台記念館　6階
TEL/FAX 03-3259-8885